



幼保小中一貫教育プロジェクト

中学生平和体験事業

阿久比町では毎年8月5日と6日に中学1年生を広島へ派遣する「中学生平和体験事業」を実施しています。この事業は平成10年に始まり、今回も8人の生徒たちが現地でさまざまな体験をしてきました。今回は生徒の手記から、学んできたことをお伝えします。

【1年1組 宮崎志堂】

僕は「戦争をしてはいけない」と学んでいましたが、今回初めて広島へ行き、以前にも増して「過ちは繰り返してはいけない」という思いが強くなりました。今の日本が平和なのは、戦争で犠牲になった多くの方や、その過去の過ちを反省し二度と戦争を起こさないように語り継いできた方がいるからだと思います。今の僕にできること、今の僕がしなくてはいけないことは、戦争のない平和な世界が永遠に続くことを祈り、今回学んだ戦争の恐ろしさと平和の尊さを次の世代に伝えていくことだと思います。



【1年3組 岩川沙裕】

語り部の方が、戦争中に雑草、麦ごはんなどを食べていたことに衝撃を受け、普段当たり前のように食べているご飯が本当にありがたいと思いました。そして、僕たちが見た原爆ドームは原型をとどめていないがれきの山で、鉄も溶けて過去にあった噴水もなくなっていました。あんなに大きなものが溶けてなくなるほどなので、「その近くにいた人々は…」と考えるだけで胸がいっぱいになります。これからの未来では、多くの人々を苦しめ、悲しませた恐ろしい「核兵器」を絶対に扱ってはいけないと強く感じました。

【1年4組 石川真衣】

広島に原爆が落とされた当時、広島市には市民や軍人など約35万人がいたそうです。インターネットで調べると、広島市ではその年の12月末までに14万人が死亡したといわれていますが、実際には正確な人数が分かっていないと聞き驚きました。今回の体験学習に参加して、命の大切さや尊さを学ぶことができました。また、被爆された方のお話や平和記念式典への参加など、たくさんの貴重な体験をしました。この体験を踏まえて、私たちが今回学んだことを、次の世代に受け継いでいけるようにしていきたいと思います。

